

東国文化自由研究レポート



研究テーマ

太田天神山古墳 方位 219° のミステリー

提出日 2025 年 8 月 25 日 (月)



伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校

1 年 2 組 12 番

氏名 楠本 理人

○研究対象と動機

天神山古墳は、私の身近にある大きな古墳である。古墳といっても今では小高い山のように、木に覆われ、カブトムシやクワガタを採りに行った。東日本最大の古墳であることは知っていたが、研究はしたことがなかった。今回、東国文化自由研究のテーマを考えると、真っ先に浮かんだのが天神山古墳だった。

しかし、いざ調べてみると、資料館に行ったり資料を見たりしても、天神山古墳はすでに盗掘に遭っているためか、想像以上に分からないことが多く、古墳時代は文献も少ないこともあって難しそうだった。だからこそ、身近なこの古墳がなぜここに造られて、誰が被葬者として眠っていたのか調べて天神山古墳の謎と被葬者の姿を想像してみようと思った。

○研究の方針

古墳の現地調査、博物館・図書館での資料調査、他の古墳との比較を行って天神山古墳の特徴とこの場所に造られた意味、被葬者の姿を考える。

○天神山古墳の概要

天神山古墳は、太田市の中心部のやや東(内ヶ島町)にある全国的に見てもかなり大きい部類に入る古墳で、全国では28番目。大きな古墳が集中する西日本を除いて東日本最大の古墳とされている。

太田市文化財課のリーフレットによると「天神山古墳は、東武伊勢崎線太田駅の東約1.2kmにある古墳です。全長約210m、後円部直径約120m、前方部前端幅126mの巨大な前方後円墳で、昭和16年1月27日に国指定史跡となりました。墳丘は三段につくられており、表面は渡良瀬川水系で取ってきたものと思われる川原石で覆われているとされています。埋葬施設はすでに盗掘されており、石棺の一部が転落していました。この古墳からは家形埴輪や水鳥形埴輪などがみつかっています。後円部の頂上には器財埴輪が、中堤帯には円筒埴輪がそれぞれ置かれていたと考えられています。この古墳が造つられた時期は5世紀中ごろと推定され、葬られた人は畿内大和政権と強いつながりをもつ毛野国の大首長であったと考えられています。」と書かれています。

また、隣にある女体山古墳は「天神山古墳の東に造られた帆立貝形古墳(または造り出し付円墳)です。直径約84mの円丘部に長さ約16m、幅約18mの造り出しが付いている古墳で、造られた時期は5世紀中ごろであると推定されています。天神山古墳と女体山古墳は、ほぼ同じ時期に造られていることや、同じ方向を向いて造られていること、設計企画に同じ尺度を用いている可能性があることなどから、2つの古墳の葬られた人たちの間には密接な関係があったと考えられています。」と書かれていて強い関係性があると思われる。



○現地調査と博物館による調査

1. 現地調査

天神山古墳は現在では木々に覆われた山のような状態。古墳の周囲の堀は木々がなく、水は無いが今でも堀であることが分かる。堀の一部は後円部ギリギリのところを道路(県道2号線)が通って分断されている。周囲は平坦な場所で、堀の底は周囲の畑からは30cmほど、道路からは1mほど下がっている。古墳に登ると急な坂道となっていて、石棺があったと思われる後円部は頂上がくぼんでいる。

また、女体山古墳は天神山古墳よりも堀も浅く、墳丘の高さも低く、傾斜は緩やかだった。

天神山古墳の堀の深さを考えると、堀を掘って出た土を古墳づくりに活用したのではないかと思った。堀は古墳を立派に見せたり被葬者を守るという意味だけでなく、造りやすさからも必要なものだったと思われる。



天神山古墳登り口(2025年7月26日)

2. 資料館での調査

天神山古墳には博物館が近くにないので、太田市立の博物館である新田荘歴史資料館に行った。天神山古墳は出土品が少ないと聞いていたが、天神山古墳の展示はガラスケース1面分で水鳥型埴輪など数点あるだけだった。



天神山古墳から出土した水鳥形埴輪
(新田荘歴史資料館で撮影)



天神山古墳から出土した埴輪類
(新田荘歴史資料館で撮影)

○研究テーマ

東日本最大の天神山古墳だが、出土品が少なく、被葬者が誰であるのかよく分かっていない。文献も少なく情報が少ないが、次の疑問点について調査する。

- ・女体山古墳と同じ方向を向いているのには、どんな理由があるのか。
- ・2つの古墳はなぜこの場所に造られたのか。
- ・被葬者はどのような人物であるのか。

○研究方法

天神山古墳と女体山古墳が同じ方向を向いている、という事実を切り口にして研究を進める。

- ・地図によって古墳の方位や立地を調べる。
- ・近隣の同じような古墳について資料を集めたり、現地調査を行う。

○仮説

群馬県(上毛野国)と栃木県(下毛野国)、埼玉県(武蔵国)との境界部に位置する太田市にこれだけ大きな古墳を造っていることから、天神山古墳の被葬者は3国に影響力を及ぼす人物であったのではないかと推測される。

また、古墳は多くの人手と時間をかけて作るものなので、方向も何らかの意味があると考えられる。

○研究内容

1.東日本最大といわれる天神山古墳の位置づけ

天神山古墳は「東日本最大」といわれる。大阪府堺市が作成した古墳の大きさランキングでは、天神山古墳は全国28番目となっている。堺市が公表している36位までに、近畿以外でランクインしているのは岡山の2基と天神山古墳のみだった。また、公式ではないが上毛新聞社がまとめたランキングでは東日本2位の古墳は茨城県石岡市の船塚山古墳(186m)、3位は群馬県高崎市の浅間山古墳、4位が太田市の円福寺茶臼山古墳(168m)となっており天神山古墳の大きさが特に際立っている。

このことから天神山古墳の被葬者は、群馬だけでなくもっと広範囲に影響力を持つ王であった可能性が高いと思われる。

古墳の大きさランキング

順位	古墳名	墳丘長さ 全長(約m)	所在地
1	仁徳天皇陵古墳(大山古墳)	486	大阪府堺市
2	応神天皇陵古墳(菅田御廬山古墳)	425	大阪府羽曳野市
3	履中天皇陵古墳(石津ヶ丘古墳)	365	大阪府堺市
4	天神山古墳	350	岡山県岡山市
5	河内大塚山古墳	335	大阪府羽曳野市
6	五条野丸山古墳	310	奈良県橿原市
7	ニサンザイ古墳	300以上	大阪府堺市
8	渋谷山古墳(兼行陵)	300	奈良県天理市
9	仲姫命陵古墳(仲津山古墳)	290	大阪府藤井寺市
10	作山古墳	286	岡山県総社市
...	...	...	...
28	船塚山古墳	210	奈良県大和郡高市町
29	西陵古墳	210	大阪府泉南郡岬町
30	太田天神山古墳	210	群馬県太田市

2.地理院地図で調べた天神山古墳の立地と方位

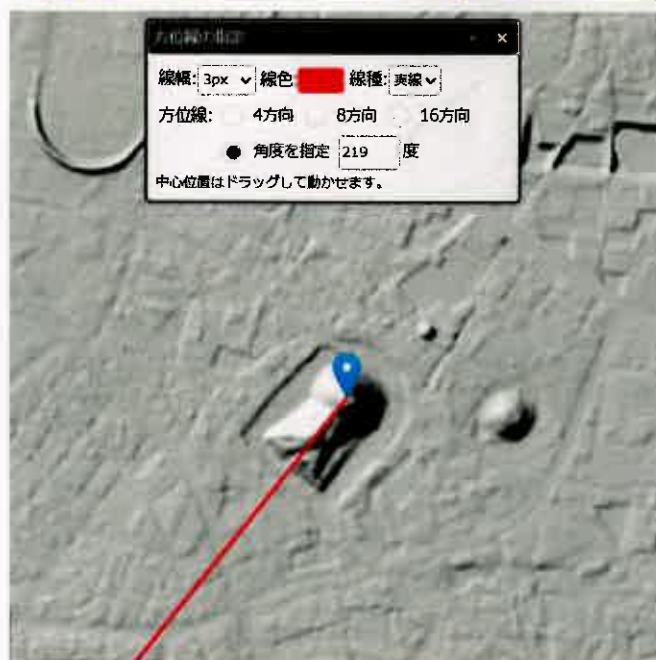
天神山古墳は太田市内ケ島町に位置する。女体山古墳は天神山古墳から東に約300mほど離れた場所に位置する。

天神山古墳のリーフレットや文献でも同じ方向を同じ方向を向いていると書かれているが、確かに航空写真で見ると天神山古墳と女体山古墳は同じ方向を向いている。その方向を確かめるために、後円部の中心から前方部の中心に伸ばした線がどの方位か調べた。

計測には地理院地図を使い、航空写真では樹木で形が分りにくいので、「陰影起伏図(※)」を使った。

その結果、天神山古墳は方位219度を向いていることが分かった。女体山古墳も同様、219度を向いていた。

※「陰影起伏図」はレーザーで測定した地形を分かりやすく表した地図で、火山の火口などの調査にも活用されている。



3.古墳の方位にどんな意味があるのか

天神山古墳と女体山古墳は同じ方位を向いていて、ともに219度であったが、この方位には何の意味があるのだろうか。古墳の方位は、一説では日の出や日の入りに関係しているともいわれる。しかし、天神山古墳での日の入りの方角は一番日の短い冬至でも219度までは南にならず、それと一致しない。あれだけの大工事を行うのに古墳の方位に意味がない訳はないので文献を調べてみると、若狭徹氏は「なぜ古墳の主軸方位が異なるのだろうか。ビジュアルにこだわった古墳の方位が安易に定められたはずがなく、方位の差は一定の意味を持ち、被葬者の出自や社会的立場を反映しているとみるべきであろう」と述べている（「東国から読み解く古墳時代」P168）。また、広瀬和夫の著書では「古墳群を空から眺めると、一見前方後円墳の向きはバラバラで、不規則に築かれたように見える。この不規則性の理由については明確な答えが出ていないものの、古墳の築造が地形の影響を多分に受けるという点がある。また、築造年代が違うことも原因と考えられる。前方後円墳には「見せる」施設としての役割がある」と述べており（古墳入門P168ページ）、分かっていない部分が多いようだった。

天神山古墳の方位には何の意味があるのか。そこで近隣の古墳の方位も調べてみることにした。

4.他の古墳の方位

大室古墳群（前橋市）の中二子古墳は271度で、微妙にずれているが浅間山に向いていることが分かった。同じく大室古墳群の後二子古墳ならびに小古墳は293度で、榛名山に向けて作られたものと考えられる。同じく大室古墳群の前二子古墳は妙義山に向いていることが分かった。

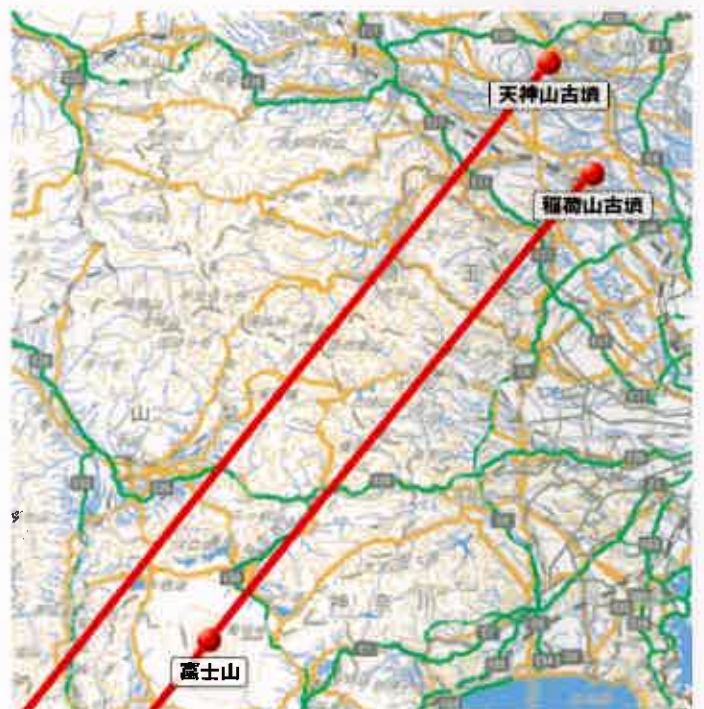
図にはないが前橋の二子山古墳も榛名山を向いていた。目立つ山を軸の方位に決めることは、基準の線ができるので正確に作るのに役に立つのだと思った。県内では浅間山や上毛三山と呼ばれる象徴的な山に向ける理由もわかる。



では誰もが判別できる「富士山」に向いている古墳はないのか調べてみると、埼玉県の「埼玉古墳群」の古墳が富士山に向いていることが分かった。

埼玉古墳群（埼玉県行田市）は、その字の通り、埼玉県の名前の由来となった埼玉県を象徴する古墳群、その埼玉古墳群の稲荷山古墳と二子山古墳は、ともに方位219度で、この延長上に富士山があることが分かった。先ほどの大室古墳群も合わせて考えると、当時は目立つ山に向かって作られていた可能性が高そうだった。

天神山古墳の位置からは手前の山が邪魔して富士山を見ることはできないが、同じ219度の方向を向いていることには何か意味があると考えたので、天神山と同じ方位の古墳である稲荷山古墳、二子山古墳（埼玉県行田市）について調査をした。



5. 埼玉古墳群 稲荷山古墳の調査

行田市のHPによると「埼玉古墳群で最も古く、墳丘の全長は120mで、周囲には二重の長方形の周堀がめぐっている。墳丘、中堤のそれぞれ西側に、造出しという張り出し部が設けられている。昭和43年の発掘調査により、後円部から2基の埋葬施設が見つかった。そのうち礫櫛からは、鏡や武具、馬具とともに、115の文字が刻まれた鉄剣が出土した。金錯銘鉄剣と呼ばれるこの剣は、古墳時代の刀剣の銘文としては最も長文で、その内容も古代史を研究する上で重要な情報が含まれている。稲荷山古墳の埋葬施設から出土した遺物は、その学術的・歴史的価値の高さから、一括で国宝に指定されている。」とされている。「金錯銘鉄剣」は雄略天皇との深いつながりを表しているそうだ。この鉄剣は471年に作られたとされており、稲荷山古墳はこれより後に作られていると考えられる。



国宝 武蔵埼玉稲荷山古墳出土品 金錯銘鉄剣(埼玉県立埼玉史跡の博物館で撮影)



復原 古墳時代の馬の装い
将軍山古墳展示館(行田市)で撮影



石室の状況
将軍山古墳展示館(行田市)で撮影

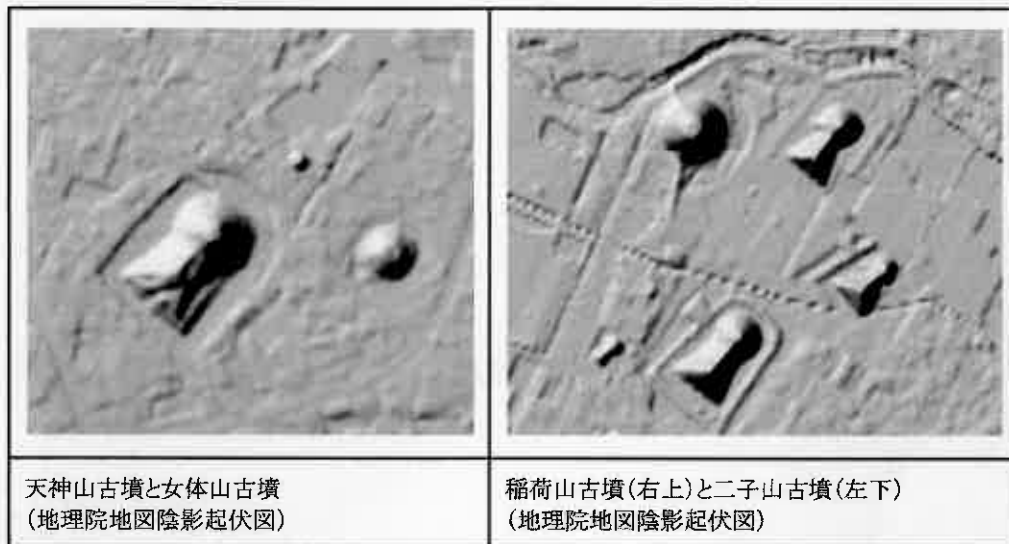
○天神山古墳の方位「219度」の謎に対する考察

1.天神山古墳と稲荷山古墳（埼玉古墳群）の被葬者の関係

天神山古墳と女体山古墳、埼玉古墳群の稲荷山古墳・二子山古墳は同じ方位219度を向いている。では、稲荷山古墳と同じ方角を向いているのはなぜだろうか？これは3つの説に分けられると考えた。

- ①富士山に向けて造られた稲荷山古墳の方向に天神山古墳の方向を合わせた
- ②天神山古墳の方位219度に合わせて稲荷山古墳は造られた
- ③偶然の一致

真っ先に思い付いたのは①「富士山に向けて造られた稲荷山古墳の方向に天神山古墳の方向を合わせた」というもの。稲荷山古墳には天神山古墳の被葬者の親や尊敬する人物が埋葬されていると仮定して、天神山古墳を造るときに稲荷山古墳と同じ方角にするため、稲荷山古墳づくりの関係者の協力を得て同じ方位で天神山古墳を造ったのではないだろうか。方角は星などの何らかの方法で稲荷山古墳の方角を測定したのだろう。ただ、太田からは富士山が見えないこともあり、稲荷山古墳と方角は一緒だが、実際にはその方向では富士山には向かなかつたという説だ。ただし、今の研究では稲荷山古墳のほうが後に造られていると思われるので、その場合、この説ではない可能性が高い。



次に②「天神山古墳の方位219度に合わせて稲荷山古墳は造られた」という説。天神山古墳の被葬者と深い関係があったと思われる稲荷山古墳の被葬者が、天神山古墳と同じ方位の古墳を造るために天神山古墳の方角を調べた。そして、その方位で稲荷山古墳を造るとき、富士山にちょうど向く場所(行田市埼玉)を選んで稲荷山古墳を造った、という説だ。これは天神山古墳のほうが古いという今の研究内容と時代が合う。稲荷山古墳の被葬者が尊敬する天神山古墳をもとにして造ったという説だ。ただ、これでは天神山古墳がなぜ219度の方位なのかは謎のままとなってしまう。ただ、天神山古墳は特に山など何かに向けて造ったわけではなく、もっと別の大きな目的、現在ではまだ分かっていない被葬者の死生観によるものだったり、古墳を権力の象徴として支配地域への見せ方で方位を決めたりと、当時「とても意味のある角度」に造ったというものだ。日本最大の大仙古墳は210度の方位であるが、この意味もまだ分かっていない。天神山古墳と稲荷山古墳の方位219度は偶然の一致ではなく、「とても大事な意味のある方位」ということだ。

そして最後は、特に関連もない③「偶然の一致」説だ。天神山古墳と稲荷山古墳は方位が一緒ではあるが、これは被葬者の支配地域から見栄えが良い角度や富士山を目標など別々の理由で方角で造られて、その二つの古墳が偶然にも角度が同じになったという説だ。

個人的には、天神山古墳のほうが古いという定説を壊すことになるが①の説が一番しっくりくる。だが、どちらにしても1度の狂いもなく同じ角度を向いていて、同じ関東地方の近いところにあるので稲荷山古墳の被葬者と天神山古墳の被葬者は深い関係があると思われる。

2.太田市の古墳の位置関係と関係があるのか

古墳によって方位はバラバラであるようだが、近くの古墳が同じ方角を向くなど法則性があるように感じる。あれだけの大工事を行う一大プロジェクトに何の意味もないわけがない。文献でも明確な答えはない。今回、天神山古墳が方位219度であり、埼玉の稲荷山古墳と一致していることから、なぜ天神山古墳はこの方位で造られたか考察してみたが、明確な答えはわからなかった。

天神山古墳の方位219度には、不思議なことに天神山古墳より早い時期に造られている朝子塚古墳がある。また、女体山古墳と天神山古墳の後円部を結ぶと、その延長上に円福寺茶臼山古墳がある。これにどのような意味があるのか分らないが、円福寺茶臼山古墳は天神山古墳よりも早く造られているといわれているので、あえて延長上に並ぶように造られているのであれば、地位のある王どうしてリスペクトしたり結びつきを見せるなどの意味もあるのかもしれない。ただ、円福寺茶臼山古墳の方位165度には特に何もないので、これ以上のことは分らない。



○まとめ

埼玉古墳群では富士山に向けて作られているが、天神山古墳や女体山古墳はこの研究では、何に向けて作られているか解明できなかった。だが、天神山古墳の被葬者と埼玉古墳群の被葬者は、何らかの関係があり、どちらかがもう一方と同じ角度で古墳を作った可能性が高い。また、大和政権との繋がりも強かったことが分かっている。近くにあり、同じ方向を向いている埼玉の稲荷山古墳からは重要な鉄剣が見つかったことから、それよりも大きな天神山古墳にはそれと同等かそれ以上の大きさの鉄剣が埋まっていた可能性もある。また、現在の群馬、栃木、埼玉の真ん中あたりにあるため、この3県すべてを治めている王だったかもしれない。

5世紀の初めに浅間や榛名の噴火があつて前橋・高崎などの地区は被災していたこと、太田は畿内から関東・東北に抜ける「東山道」が通っていて、武蔵国に道が分岐していたこと、その後の時代に新田荘、足利荘と大規模で豊かな荘園ができ、有力武将が治めていたことを考えると、古墳時代にはこの辺りは、とても豊かな穀倉地帯で関東と東北を治めるのにも重要な土地であったと思う。天神山古墳が盗掘に遭ってしまったことは残念だが、それだけの価値がある古墳であったのだろう。天神山古墳がもつミステリーが少しずつでも明らかになって219度の謎も解明できるとうれい。

いまでは静かにたたずんでいる生き物たちのオアシスのような古墳には誰が眠っているのだろうか。

次のページに今回の研究のために地理院地図で調べた古墳の方位をまとめた。いまだ古墳の方位の意味は分からないものだらけであったが、やはり近くの古墳が同じ方向を向いていたり、山などを向けていることから古墳の方位には何らかの理由があるのだと思う。



天神山古墳(南側から撮影)

調べた古墳の方位

古墳名	場所	方位	軸の方位の先にあるもの	情報	古墳群
天神山古墳	群馬県太田市	219	不明(朝子塚古墳)	東日本最大	
女体山古墳	群馬県太田市	219	不明(天神山古墳と同方位)		
円福寺茶臼山古墳	群馬県太田市	165	不明		
仁徳天皇陵古墳 (大山古墳)	大阪府堺市	209	不明	全国1位	百舌鳥古墳群
応神天皇陵古墳 (誉田御廟山古墳)	大阪府羽曳野市	348	不明	全国2位	古市古墳群
履中天皇陵古墳 (石津ヶ丘古墳)	大阪府堺市	209	不明(仁徳天皇陵と同方位)	全国3位	百舌鳥古墳群
造山古墳	岡山県岡山市	209	不明	全国4位	
河内大塚山古墳	大阪府羽曳野市	348	不明(応神天皇陵と同方位)	全国5位	古市古墳群
五条野丸山古墳	奈良県橿原市	328	不明	全国6位	
ニサンザイ古墳	大阪府堺市	287	履中天皇陵前方部の角	全国7位	百舌鳥古墳群
渋谷向山古墳(景行陵)	奈良県天理市	259	雌岳	全国8位	
仲姫命陵古墳 (仲津山古墳)	大阪府藤井寺市	238	不明	全国9位	古市古墳群
作山古墳	岡山県総社市	219	不明	全国10位	
稲荷山古墳	埼玉県行田市	219	富士山		埼玉古墳群
二子山古墳	埼玉県行田市	219	富士山		埼玉古墳群
中二子古墳	群馬県前橋市	271	浅間山		大室古墳群
後二子古墳	群馬県前橋市	293	榛名山		大室古墳群
前二子古墳	群馬県前橋市	258	妙義山		大室古墳群
二子山古墳	群馬県前橋市	300	榛名山		
浅間山古墳	群馬県高崎市	149	真逆の方位329度に榛名山		
大鶴巻古墳	群馬県高崎市	135	不明		
七輿山古墳	群馬県藤岡市	289	浅間山		
綿貫観音山古墳	群馬県高崎市	330	苗場山		
保渡田八幡塚古墳	群馬県高崎市	164	不明		保渡田古墳群
井手二子塚古墳	群馬県高崎市	244	天神山、妙義山		保渡田古墳群

参考文献

- ・若狭徹「東国から読み解く古墳時代」、吉川弘文館、2015年
- ・古代浪漫研究会「古墳のひみつ」、メイツ出版、2018年
- ・広瀬和雄「知識ゼロからの古墳入門」幻冬舎、2015年

参考資料

- ・古墳大きさランキング(日本全国版)(堺市ホームページ)、アクセス日:2025年7月24日、(<https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/rekishi/dkofun/ranking/zenkoku.html>)
- ・上毛新聞社ホームページ「「古墳王国」の群馬県 東日本の大型古墳5基のうち4基が集中 ヤマト王権の承認で繁栄《ランキング》」、アクセス日:2025年7月24日、(<https://www.jomo-news.co.jp/articles/-/389564>)
- ・天神山古墳・女体山古墳リーフレット(太田市ホームページ)、アクセス日:2025年7月24日、(<https://www.city.ota.gunma.jp/uploaded/attachment/10763.pdf>)
- ・地理院地図(国土地理院)、アクセス日:2025年8月5日、(<https://maps.gsi.go.jp/>)

調査場所

- ・天神山古墳(群馬県太田市内ヶ島町 訪問日:2025年7月26日)
- ・女体山古墳(群馬県太田市内ヶ島町 訪問日:2025年7月26日)
- ・朝子塚古墳(群馬県太田市牛沢町 訪問日:2025年7月26日)
- ・円福寺茶臼山古墳(群馬県太田市別所町 訪問日:2025年7月26日)
- ・塚廻り古墳群第4号墳(群馬県太田市龍舞町 訪問日:2025年7月26日)
- ・太田市立新田荘歴史資料館(群馬県太田市世良田町 訪問日:2025年7月26日)
- ・群馬県立歴史博物館(群馬県高崎市綿貫町 訪問日:2025年7月25日)
- ・稻荷山古墳(埼玉県行田市埼玉 訪問日:2025年7月26日)
- ・将軍山古墳(埼玉県行田市埼玉 訪問日:2025年7月26日)
- ・丸墓山古墳(埼玉県行田市埼玉 訪問日:2025年7月26日)
- ・二子山古墳(埼玉県行田市埼玉 訪問日:2025年7月26日)
- ・将軍山古墳展示館(埼玉県行田市埼玉 訪問日:2025年7月26日)
- ・埼玉県立埼玉史跡の博物館(埼玉県行田市埼玉 訪問日:2025年7月26日)
- ・仁徳天皇陵古墳(大山古墳・大仙陵古墳)(大阪府堺市堺区大仙町 訪問日:2025年8月20日)